

大学生まれのサイエンスが社会のための技術になるとき

日程：9月28日（木）

会場：京都府立大学 稲盛記念会館104

13:00 開場

13:15 - 13:20

はじめに

平野 朋子（京都府立大学）

13:20 - 14:00

自然にまなび・利点をいかす・新結合

細矢 憲（京都府立大学 生命環境科学研究科）

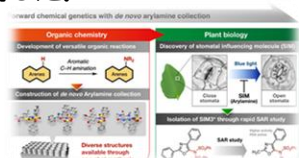
京都府立大学・地域貢献型特別研究（ACTR）により、自然物を活かした研究を進めてきた。その中で、それらの利点を活かすことで、新結合によるプラスワン機能の発現をさまざま実現した。

14:10 - 14:50

植物分子を有機化学で創り出す

村上 慧（関西学院大学 理学部）

植物に作用する分子（植物分子）を有機化学で新たに創り出す研究を行ってきた。最近では植物気孔の開口を抑制する分子を見つけ、短期間のうちに高活性分子に導いた。これを可能としたのは有機化学の分子変換技術である。詳細についてご紹介しながら、有機化学×植物科学の未来についてお話しさせていただきます。



15:00 - 15:40

第二次みどりの革命を起こすバイオスティミュラント

平野 朋子（京都府立大学 生命環境科学研究科）

植物は、ふだん、“潜在能力”を温存しつつエネルギーを産み出している。植物のポテンシャルを引き出す物質の発掘現場を紹介する。



15:50 - 16:30

昆虫と植物のコミュニケーションを解読する

高林 純示（京都大学 生態学研究センター）

植食性昆虫の食害を受けた植物は、特定のかおりブレンドを放出する。このブレンドは微量で我々には知覚できないが、植物と昆虫間、植物と植物間のコミュニケーションでは重要な役割をはたしている。身近な例を用いて、植物のかおりブレンドの持つ生態機能とその応用について我々の研究成果を紹介する。



16:30 - 16:35

おわりに